

きずな



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

第12回 国際文化スタディ

ユネスコ加盟70周年記念事業(文科省認定)

ブラジル日系社会から日本を考える

講師 本郷豊氏(元JICA O B)

11月28日(日)、午後2時白岡市「はぴすしらおか」に約3年ぶりとなる講演会を開催。寒風吹きすさぶ中、感染防止の為入場制限一杯の65名の参加で盛況でした。田村会長の主催者挨拶に続き、野口白岡市副市長及び中野蓮田市長から激励のご挨拶を戴きました。



2021年11月28日 蓮田・白岡地方ユネスコ協会主催 第12回国際文化スタディ
タイトル: ブラジル日系社会の歴史と発展-ブラジル日系社会との関係から日本を考える
講師: 本郷 豊氏

講師は、ブラジルの農業開発、特にセラード地帯の開発にJICA専門員として25年以上携わった専門家です。ブラジル移住の歴史は1908年に始まり、今や世界で最も多い200万人の日系人を有し、6世が誕生との紹介がありました。講演の内容は、①ブラジル移

住の歴史②日系社会が取組んだ大規模農業開発③国際協力に参画する日系ブラジル人技術者の活躍④在日ブラジル社会の現状(事例として群馬県大泉町)でした。①に関しては、当初の農業従事者から今や日系人がブラジルの法曹、政治、経済、教育の各界で活

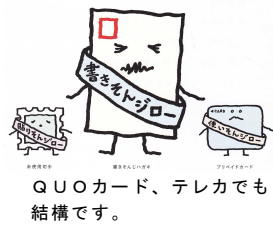


躍している。中でも優良大企業となったJACTO社を興した西村修二氏(奈良県出身)の軌跡が熱く紹介されました。同社開発製品の大型全自動農業散布機はGPSを活用し24時間稼働、ハンドルなしという迫力に圧倒される農業機械でした。

②③は、講師が長年取り組んだセラード地帯(耕作が不毛)の開発の成果が、日系人の多大な協力により大豆、トウモロコシの生産地に生まれ変わり、大豆の生産高では今や米国を上回り、ブラジルが食料輸入国から食料輸出国へと転換し世界の食料安全保障上で重要なポストを占めている説明がありました。④は、

現在日ブラジル人数は21万人(国籍別第5番目)に達して、その増えた背景を分析し、大泉町(外国人人口が人口比20%)の現状と課題に言及、その課題とは、同町が「外国人との共生」を目指す一方、日系子弟の教育問題等があると分析されました。当日は大泉ユネスコ協会の寺西会長、清水副会長が参加され教育問題が重要との共通認識を確認していました。講演後の質疑応答も活発で、白岡市に在住し日本語教室で学習中のブラジル日系人母娘とポルトガル語が堪能な講師とのやり取りで、女子が「日伯の文化の懸け橋」になるとの答えに講師が感激する場面もありました。アンケートにも大変有意義な講演であったと多数意見がありました。

11枚の書きそんじハガキでひとりがりひと月学校に。



Q.U.Oカード、テレカでも結構です。

今年を振り返って

会長 田村勝彦



この手法を取り入れるなど、IT化の促進を図って参りました。このほか、会員間の更なる意思疎通を図るべく「支援者の輪

今年度の活動計画の目玉であった「教育」については、周知の通りユネスコスクールを含む市内小・中5校に講師を派遣するなど、キャリア教育を側面的に支援して参りました。これらの諸活動により構築された学校との連携協力の実績をベースに教育委員会をはじめ関係機関とも手を携えながら、更なる発展を目指して協力を推進して参りたいと思っております。又、これと並行してオンライン推進チームを立ち上げ、初のZoomを用いた「オンライン講演」を開催した他、理事会等にも

(当協会の「学校支援協力活動」として本年度後半に開催された3校の講演会を左記にご紹介致します)

蓮田市立黒浜中学校ふれあい講演会

「南極観測の経験を通して考える 私達の未来」

10月8日(金)開催

講師：福地光男



コロナ禍の影響を受け、体育館には3年生3学級の生徒のみが集まり、1・2年生の合計6学級の生徒は各クラスで

学校の今後の理科の授業時間を使って、1・2年生が同じ体験をすることを予定しています。様々な南極の観測成果が将来の地球環境変動の予測に繋がる事は、IPCCの活動に反映されていることを説明、講演の合間には「月のウサギ南極はどう見えるか?」、「ペンギンの足の裏は何か?」の質問を出し、1・2年生とはモニターを通してやり取りしました。また、シヤチと白熊の縫いぐるみで海の食物連鎖をぐるみで海の中から次々に餌が出てくる縫いぐるみは生態系を理解してもらうのに適した教材です。最後に南極の太陽の動きをコマ撮りした写真を見せ、いつの季節の何時か?動く方向などを生徒に考えてもらう宿題と

がありましたので幾つかを学校側の了解を得たので紹介致します。①僕は「curiosity」好奇心の大切さについて改めて学び、考えました。南極観測なども好奇心によって興味を沸き楽しめるものだとおもいました(3年男子)。②南極の動物のお話や、私達が使っている氷との比較など、色々な話が聞けました。南極にも悪い影響を与えているので、普段の生活でも地球温暖化について考えていこうと思います(2年女子)。③福地先生の話から自分にも何か出来ないか、考えて生活をしたいと思っています。頑張りたと思います。有難うございました。(1年女子)。等のお礼の言葉やコメントがありました。



この日、世界的な海洋学者でもある講師が生徒に伝えた数々の学びと感動は、学校側と3度に亘る入念な事前打合せと、極地研から資料の提供を戴くなどして本日を迎える話して下さった結果によるものと参加者一同は感謝し、願わくば次世代には南極を目指すような後輩・逸材が出る事を期待した次第です。

ユネスコ講演会

11月19日(金)開催

「私たちと同じところ・ちがうところ」

講師：蓮田市出身 JICA 協力隊 O B 谷直紀氏

蓮田市立中央小学校にて、谷直樹先生によるユネスコスクール「ふれあい講座」を講演いただきました。演題「私たちと同じところ・ちがうところ」海外の「学校・健康・文化」の視点からタンザニアでの体験談、生活や現地の小学校について、クイズ形式で谷先生が子どもたちの中にとけこみ、楽しくわかりやすい講演をしていただきました。6年生はマナーもよく、先生のクイズに興味深々、多くの児童が挙手し、積極的に発表してくれま

うに、勉強しているところだと思いました。ちがうところは、井戸で水をくんでいたところ、1つの教科書をみんなで使っていたことなど、世界には、暮らしがちがう国もあるので、差別などしないで、その国の人たちも大切にしていきたいです。



以下生徒感想
タンザニアの学校と日本の学校で同じところは、みんな明るく楽しそ

また当日講演を視聴した生徒の中から素晴らしいコメントやお礼の言葉やコメントがありました。

産・世界寺子屋運動

④「ユネスコ活動の役割と広が

り」に分かれて開催され、埼玉県からは④のテーマで深谷地方ユネスコ協会柴崎副会長が活動の取組状況を発表しました。その内容は、今年のNHK大河ドラマで取り上げられている深谷市出身の渋沢栄一の生涯に触れた後、同人の心を受け継ぐ「ふるさと教育」の取組(同市内の幼稚園、小・中学校による論語の暗唱、蚕の飼育、藍玉づくり等の体験)を紹介し、「論語を楽しむ会」を立ち上げ地域に根差した学びの場が会員の増加にもつながっていることも紹介されました。

蓮田市立蓮田中学校「ふれあい講演会」

私達の挑戦、今私達が出来ること

講師：谷直紀氏

10月7日講師は、タンザニアでの体験を基に、生徒たちに終始熱く話しかけてくれました。まず、現在国際社会で取り組んでいるSDGs(17の開発目標)の概要を説明した後、タンザニアを舞台にした3枚(①小学生が教室でパソコンに触れている場面②ご本人が入院してベッドに横たわっている場面③何か作業した後の本人と村の住人達との場面)の写真を示し、感じたことを生徒たちに

その成果を広めることが大切である、と締めくくりました。谷氏は現在NPO法人国連UNHCR協会に勤務されていますが、国際協力に参加したきっかけが実は「青年海外協力隊の募集案内」のポスターでの呼びかけであったことをあかししました。

大会は(公社)日ユ協連佐藤美樹会長の挨拶で開幕。いつもの豪華な催しは一切無し。主催者挨拶と各省庁来賓・府知事(代読)・京大IPS山中伸弥所長などの祝辞が続きました。実践発表として神戸ユ協青年部・日経大ユ・クラブ・箕面ユ協が活動報告を行い、「キッズ・カフェ」「子供食堂」やコロナ禍における日本語学校在学中の留学生支援の事例とポスト・コロナの世界における活動がリトアニアをはじめ5か国の地域からオンライン発表が

ありました。芦屋ユ協広瀬名誉会長、気仙沼商工会議所菅原会頭のビデオメッセージが続きました。デイスカッションは「誰ひとり残さない社会の構築」のタイトルで安井裕司氏がコーディネートとなり行った。播磨靖夫氏(たんぼほの家理事)は「ラジカルに考えリアルに実践する：平和の砦では無く「橋」：ではないか」との発言に共感。藤井睦子氏(健康医療部長)は府の立場からWithコロナを如何に生きるかを説いた。中村

浩也氏(桃山学院教育大学教授)は自身の海外体験から「文化の多様性と調和」が大事で、人間をつき起こすのは「憎悪・強欲・無知」が関係すると話された。閉会式は(公社)日ユ協連鈴木理事長の挨拶で、今日に至る迄の関西ユ協連の活躍経緯を称え、今回が初めて会場とYouTube配信のハイブリット方式大会の画期的な開催と結びました。最後に次期開催地の紹介が木更津ユネスコ協会長からあった。開催日2022年11月26日(土)尚次年度は、関東プロ研も全国大会と併催との発言で終了となりました。

蓮田の歴史そのII



骨を入れた壺

前号で弥生時代になると蓮田から人がいなくなつたと書きました、理由は海退後の低地は湿地化し、河川の氾濫による洪水の繰り返し、台地上には川が無いため稲作には向きな土地でした。しかし0人になつたとわけではありません。例えば弥生中期(紀元0年頃)宿下遺跡に再葬墓(一度土葬し後に骨だけ取り出し、壺に入れて改めて埋葬)が作られています。宿下遺跡に再葬墓後期になると久台遺跡では、方形

周溝墓が作られています。縄文海進は5300年前頃まで+2~3mの高度で安定しますが、以後海退が始まり、1800年前頃には海面1~0mまで低下し古奥東京湾は消滅します。蓮田で一番早く出来た貝塚は7300前頃の天神前遺跡です。遺跡からは人骨が見つかって

います。炭釜屋敷貝塚からは犬の骨、魚の耳石、ガザミ(沖繩以南に棲息するカニ)温暖だった証)貝製装飾品、石製ブレスレットなど沢山の種類が見つっています。蓮田の海に棲息した貝はハイガイが殆どです、マガキはすでに養殖のノウハウも有つたのではないかと考えられています。

山本二三男
(資料・蓮田市
社会教育課)

会員紹介



村北正利(むらきたまさとし) 生まれは福井ですが学校と勤務先の都合により大阪・東京・埼玉と移り住みました。平成元年にふじみ野市からさいたま市に転居致しました。車で大宮公園の横を通つた時、大宮が気に入って来ました。趣味はテニス・喫茶店巡り・遊びで短いYouTubeを作る事です。

YouTubeの名は masatoshi murakita です。田村会長とは公園のラジオ体操で知り合入会のお誘いを受けました。蓮田・白岡地方ユネスコ協会を立ち上げた田村会長の情熱と行動力にうたれて入会致しました。古希を迎えた新人で小生に出来る事は限られておりますが、これから宜しくお願い致します。

執筆者 今までの歩み、ユネスコ活動への抱負(敬称略)



牛山あやの

会長のお嬢様よりお話を色々聞いて、ユネスコ活動に関心を抱くようになりました。戦争を知らない子どもたちへ今の平和な日本がある過程や、教育を受けられることの素晴らしさを少しでも多くの子どもたちへと継承していきたいという気持ちを抱いております。コロナ禍の中でさまざまな生活が制限され、コロナという見えない敵と共存していかなくてはいけない時代となりました。医療従事者への感謝と共にこの生活変貌という大きな壁があり、苦悩があった分色々な考えが湧いた世の中ともなりました。田村会長のユネスコに対する情熱、想いを分けて頂き、また理事の皆様のご指導を賜り活動へ取り組む所存でございます。

第53回評議員会書面開催の報告

新型コロナウイルスによる感染者が急増しているなか、感染予防の観点から書面による開催が決まりました。主たる論点のみ報告致します。議題は4項目です。1.部会等からの報告(組織部会)

理事会運営に関する基本方針2.新規事業「災害子ども教育支援事業」3.2021年度事業進捗報告4.公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)との協力関係の構築以上でした。次回第54回評議員会日程予定は2022年1月29日(土曜日)とされ書面開催(コロナ禍の収束がたない為)と発表されました。当協会と関連ある事項として特に伝えたいのは4のACCUとの協会連盟との統合に向け

た基本合意とその進捗状況です。ユネスコスクールの各種申請や情報伝達が一元化する事が期待されます。ユネスコスクールを二校擁する当協会にとっても当然の事ながら良い状況になると思っています。

投稿記事募集

会員の世界遺産旅行記、日頃の活動や研究成果を会報「ぎずな」に発表してみませんか。文字数4~8百文字写真も添えてメールで tamuzo@ddion.ne.jp まで、会報に関するご意見もお待ちしております。

蓮田・白岡地方ユネスコ協会
第17回 地域文化遺産スタディ「わが町を知ろう」

災害記憶遺産~

水神、漂着神、人柱伝承を読み解く

講師: 坂田時夫先生
(元)白岡市文化財保護課長
元、白岡市文化財保護委員
元、白岡市歴史民俗資料館長
元、白岡市文化センター長

日時: 令和4年2月12日(土) 14時~16時
場所: 白岡市「はびすしらおか」市役所隣接
参加費: 会員・学生 無料/一般: 300円

次回2月12日(土)講演会のお知らせ、
詳細はHPをご覧ください。